



### それでもコロナ治療薬は 着々と開発されている

ノーベル賞を受賞した大村智氏が開発に尽力したイベルメクチン(昨年6月に読売新聞でも取り上げられた)やこのほど厚生省が保険適用に踏み切ったレムデシベル、また7月30日の読売朝刊には重

症化防止への治療薬として「抗体カクテル療法」と言われる点滴薬は50歳以上や基礎疾患のある重症化リスクの高い入院患者対象として医療機関で使われ始めています。2019年暮れに新型コロナウイルスが出現。以来1年8か月以上日本での感染蔓延

も1年半に。多くの専門家が様々な角度から情報の集積と研究を推し進めていることは間違いありません。私達一般市民のできることは感染防止策を徹底することです。『手洗い、うがい、栄養、休養そしてマスク』今年の夏休みはゆっくりと自宅で過ごしましょう。

## ドリフトへの階段 第28回

(連載エッセイ版)「心のJ-POP〜駅(竹内まりや)」  
佐藤 洋祐

皆さん、こんにちは！暑い日が続きますが、暦の上では立秋を経て、日照時間が短くなっていることを感じたり、晩夏の蝉ツクツクボウシの声を聞いたり・・・。秋近し、でしょうか。海外でのジャズミュージシャンとしての活動を経て、日本にその場を移した時自然と心に沸いたのは、日本の曲を素材にジャズを演奏したい、という思いでした。お聴きの方々に良く知られた日本の曲を、ジャズならではの自由な心で演奏していきたい、アメリカにはアメリカのスタンダード曲があり、日本には日本のそれらがあるはずだ、

と。そして実際に演奏した日本のポピュラーソングは私に多くを教えてくれました。ジャズ史に名を残すようなミュージシャン達が、どんな心持ちで古くから広く知られたスタンダードを演奏したのか、また彼らの名演に代え難い程の魅力が宿る理由が、演奏をするほどに腑に落ちていくのです。いかにこれまでジャズスタンダードと呼ばれる曲を、その歌詞や当初の創作意図に無頓着に演奏してきていたか、ということ強く感じました。海外のジャズスタンダード曲を演奏し続けるだけでは決して体験、理解できないであろうことが多く、できればキャリアの最初からそれをしていたら良かったな、という思いがあります。



「心のJ-POP〜駅  
竹内まりや」

挿絵 TAKAKO

ただ、広く知られた曲がいろいろな感性で解釈され、様々な表現で演奏されて初めて「ジャズスタンダード」です。私独りが、それら日本のスタンダードといえる曲を演奏するジャズミュージシャンでは面白味に欠ける、と思っています。演奏家はスタンダード曲をいろいろな調やテンポ、拍子で考え得るあらゆる角度から練習し、己の成長の糧とすると共にその曲を自身の大事な表現手段へと昇華していきますが、その様に日本の曲に向き合うジャズミュージシャンが当たり前のようによくいてくたさたら嬉しいな！って思っています！そう思うのは、きっと僕が海外で活動し、そこでキラキラと輝くように活躍するミュージシャン達と接してきたことから、彼らの原動力となっているものが何であるのか自分なりに理解できるから。それは何気ない日常にある共通の素材を介しての、聴き手の皆さんとの心の中でのストーリー創りの共同作業。あ、また随分な生意気な発言、失礼しました！

今日紹介させていただいた「駅」という曲は、私が日本で活動を始めて早々に演奏をはじめた曲で、何度となく唄い、演奏してまいりました。演奏するシチュエーションによって、例えば一緒に演奏する人がどんな思いでどんな音を出しているか、お客様が何を求めておられるか、その前後の曲は何が演奏されるか、会場の今の雰囲気：数知れぬ多くの要素によって、毎回違うものをイメージして演奏され、実際に聴き手の方はいろいろな印象をお持ちになる事と思います。それでこそ「スタンダード」だと思います。有名なジャズスタンダード、「枯葉」や「ムーニーリヴァー」などと同様に、「洋祐さん」「駅」演(や)りましょうよ。キーは、Fで、4ビートで。テンポは、「1、2、」。そんなミュージシャン同士のやりとりが聞こえてくる日の到来を夢見ています。

私の歌そしてサクソフォーン演奏による「駅」を動画サイト「YouTube」にて「視聴いただけました。このQRコードを読み取るか、「YouTube」にて「佐藤洋祐 ドラゴンへの階段 駅」と検索して下さい。動画を載せている「フォーカステイパプロジェクト」は、千葉の有志達による地域おこしを目的とした動画チャンネルです。

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)  
ジャズミュージシャン。サクソフォーン奏者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。